

音楽アーティスト科 ドラムコース 受講科目一覧 1年次

ドラム総合専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I（前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I（後期）	34	2	1
講義	業界知識 I	72	2	4
演習	共同演習 I	68	2	4
講義	音楽理論/調音 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技 I	68	2	2
実習	演奏/ダンス分野別基礎 I	68	2	2
実習	サウンドアナライズ I	68	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	68	2	4
演習	アンサンブル応用 I	68	2	4
演習	アンサンブル発展 I	68	2	4
合計		888	26	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンド I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	<input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要	音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。				
到達目標	<p>前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。</p> <p>後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントターやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ドラムチューニング I		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作 				
授業概要	<p>ドラムセットはほとんどがアコースティックな要素でできており、楽器自体の個体差、環境による変化の大きい楽器です。なおかつライブハウスやレンタルスタジオでは備え付けのキットを使うことも少なくないので、即座に環境にあったサウンドメイクができるよう学んでいきます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲、ジャンルによる最適なサウンドメイクができる ・クライアントの要望を理解し、サウンドに反映できる ・スピーディーなチューニング、ミュートができるようになる 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	スネアドラムの構造を理解し、適切なサウンドメイクができるようになる。
【前期】 4～7回目	ドラムセット全体のチューニング、サウンドメイクを学ぶ。
【前期】 8～10回目	シンバルの特性を理解し、最適なマッチングを学ぶ。
【前期】 11～13回目	スネアドラムを深掘り。ヘッドやスネアワイヤーによるサウンドの変化、ミュートなど。
【前期】 14～17回目	前期試験に向けてのまとめ。 ■前期試験：試験にて到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	シェルの素材による特性、ラグやフープによるサウンドの変化。
【後期】 21～24回目	スタックシンバルの組み合わせ、エフェクト系モダンドラミング。
【後期】 25～27回目	スティック、ピーター、ロッドなどによる音色の変化。
【後期】 28～30回目	生音と録り音のサウンドの違いを学ぶ。
【後期】 31～34回目	後期試験、学年末の総まとめ。 ■後期試験：試験にて到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	チューニングというものは、ドラムのプレイングには直接関係のない部分ですが、どんなに良いプレイをしても音のせいで100%良さを発揮できていないシーンが多々あります。それはとてももったいない！良い音で最高のプレイをしましょう！
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギターヴォーカル/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	バンド「図鑑」にてドリーミュージックより4枚のアルバムを全国リリース。 メディア出演や海外フェス、国内のライブ、フェスなど多数参加。 現在はギタリストとしてアーティストのコンサート、レコーディング、オーケストラ参加など、幅広いジャンルにて活動。				
授業概要	一年間を通して、現代の音楽活動・制作に必要な、基本的音楽理論を学ぶ。また正確に楽譜を読み書きする能力と作曲の為の基礎知識を養います。				
到達目標	様々なシチュエーションで使われる音楽理論。その理論を基本的な部分から理解し、現代音楽の現場で実際に使えるコミュニケーションのツールとして、自分の知識を形成する。 また、関わる音楽を、より多角的・第三者的に捉えるための判断材料の一環として利用できるようになる。 世の中にある様々な楽曲、サウンドを、土台の部分から理解し、その楽曲のエッセンスを自分の曲やシチュエーションで利用できるようになる。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 4～7回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 8～10回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 11～13回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 14～17回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 21～24回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 25～27回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 28～30回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 31～34回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン 				
授業概要					
音楽の三大要素であるリズムを理解し、小節や指の概念を理解する。リズムに関する記号や音符を理解する。ロック/ブルース/ジャズ/ファンク/レゲイ/フュージョン/メタル他、ルーツミュージックなどをスタイル別に、また世界的スタンダードナンバーの持つリズムの歴史が後世に与えたインパクトなどを知識として理解していきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な音楽のリズム、グルーヴに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになる。 ・バンドでのテンポキープやサウンドコントロールに磨きをかける。 ・誰と演奏してもぶれないリズム、グルーヴを身につける。 ・譜面に出てくる色々な記号を理解する。 ・譜面を読むスピードが速くなるよう初見に強くなる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	カウントの重要性/8ビートのリズムパターン/ダイナミクスへのトライ/シンコペーション
【前期】 4～7回目	ピックアップノートのスタート/Que出しのトライ/マイナーブルース/ハーフタイムフィール
【前期】 8～10回目	フォークロックのニュアンス/セクションとリハーサルマーク/Cセクションへの対応
【前期】 11～13回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 14～17回目	前期内容のまとめ ■前期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	オリジナル譜面へのトライ/スウィング&シャッフル/ロックシャッフル
【後期】 21～24回目	スウィングビートへのトライ/ジャズシャッフル/12/8フィールのリズム
【後期】 25～27回目	16ビートのFunkフィール/Funkフィールのアンサンブル/ブラックミュージックのフィールを学ぶ
【後期】 28～30回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 31～34回目	後期内容のまとめ ■後期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	セット科目である「リズムリーディングワークアウト」は譜面のみでのやり取りになります。 この授業を通して譜面の初見のスピード、あらゆる記号や表現力を高め、即戦力を身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループ&オドメーター I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要	あらゆるジャンルにおけるフィールの違いを理解・体感していくと同時に、グループを構成するとされているリズム、シンコペーション、アーティキュレーション、サウンドの強化をおこないます。ドラムを演奏する上でのリズムの感じ方、グループの捉え方を学びます。また、変拍子の楽曲を演奏するために必要な考え方、ビートやフィルインの構成力を鍛えます。				
到達目標	・リズムのノリを体得する。 ・ビート、フィルインの発想力を培う。 ・カウントを身体の中に宿す。 ・リズムを点ではなく円で感じられるようにする。 ・変拍子の楽曲をアレンジして叩けるようにする。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	4分音符、8分音符、16音符の中で構成されるビート(H.H./S.D./B.D.の3点)に触れてみる練習
【前期】 4～7回目	アクセント打ち(4分音符、8分音符、16音符)で構成
【前期】 8～10回目	3連符、6連符で構成されるビートに触れてみる練習
【前期】 11～13回目	アクセント打ち(3連4符、6連符)で構成
【前期】 14～17回目	4分音符、8分音符、16音符、3連符、6連符で構成されるフィルインの練習 ■前期試験:課題曲の演奏にて「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ユニゾンフレーズに対しての捉え方をあらゆる方向からアプローチする練習
【後期】 21～24回目	オスティナートフレーズをビートとフィルの両面からアプローチする練習
【後期】 25～27回目	クリックトレーニング(8分音符ウラのアプローチ)
【後期】 28～30回目	クリックトレーニング(16分音符4つ目、2つ目のアプローチ)
【後期】 31～34回目	クリックトレーニング(3連符3つ目、2つ目のアプローチ) ■後期試験:課題曲の演奏にて「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	なんとなく叩いていたリズムを、構成しているものがより明確になりコントロールできる状態を目指します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレイングテクニック I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ジャイロズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
ドラミングの基礎ともいえる、ルーディメンツをタイムキープ、モーションの効率化、4ウェイコーディネーションなど複合的に取り入れ、より応用性の高いアプローチとして成熟させていきます。ドラムセット演奏における基本技術。特にハンド・テクニックとフット・テクニック全般を、各名称も覚えながら体系的に学んでいく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・スネア、ドラム、ルーディメンツを中心に学習し、基本を正確に理解 & 習得する。 ・それぞれの関係性を学び、それに伴いグラッドストーンやモーラー等の伝統基本奏法を身につける。 ・音量の強弱、アクセントのコントロール、スピード、巧緻性等の向上を図る。 ・ドラマーに必要な基本技術を理解し、各自の音楽性や表現力と技術との融合を促し、発展させていける段階に引き上げる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ドラマーにとっての基本奏法、ルーディメンツ等の習得の必要性、重要性の説明 グラッドストーン奏法の基本グリップ、リバウンドの感覚の習得
【前期】 4～7回目	4つの基本ストロークとそれによるアクセントとノーアクセントの叩き分け、ダブル・ストロークの習得
【前期】 8～10回目	PAS40ルーディメンツ学習 ショート・ロール系 セットへの応用
【前期】 11～13回目	PAS40ルーディメンツ学習 パラディドル系 試験
【前期】 14～17回目	PAS40ルーディメンツ学習 フラム系 コンビネーション練習 ■前期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	PAS40ルーディメンツ学習 ドラッグ系、インバーテッド系
【後期】 21～24回目	関連性のあるルーディメンツの統括 手足のコンビネーション ヘルタ等
【後期】 25～27回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ①～② フット・テクニックへの基本奏法の応用
【後期】 28～30回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ②～③ 試験
【後期】 31～34回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ③～④ まとめ ■後期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムスは、とても楽しく様々な音が出る取り組みやすい楽器ですが、一方で、技術的に上達するには手足の基本奏法をきちんと習得する必要があります。それには独習で身につけるよりもレッスンで正確な知識と練習方法を学ぶ事が近道です。ドラムセット演奏の可能性を自由に引き出せるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレイング実習 I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
音楽を記号で書き記したものを“楽譜”。その中でも、リズム譜、構成譜を中心に読む訓練と、それに伴うリズム感覚を養うトレーニングを行う授業です。スネアだけのシンプルなラインを読むところからスタートし、セット全体のコンビネーション、さらには初見演奏に対応できる力を身につけていきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜上の音符や休符、構成等の表記法と仕組み、意味を学習させ、読みこなせる力をつける。 ・各音符の細分化された目盛りを意識し、カウントの種類と発音法を学ぶ。 ・常にカウントを歌いながら演奏できるようになる。 ・一般的な楽譜の最低限の常識を理解し、実際の演奏における情報記録媒体として活用できるようにスキルとして身に付ける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	拍子、細分化された音符の目盛り(サブディビジョン)の解説、音符や休符の仕組み テキストUnit1 全音符～4分音符とそれらに対応する休符 カウントについて
【前期】 4～7回目	テキストUnit2～4 略記法 8分音符 2Part Counting スティックングについて
【前期】 8～10回目	テキストUnit5～7 16分音符 3連符について 付点音符
【前期】 11～13回目	Unit8～Unit10 付点音符 3連符の様々なコンビネーション
【前期】 14～17回目	Unit10～12 前期まとめ ■前期試験:譜面の読み書きや演奏にて「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	Unit13～14 D.S.D.Cを使った楽譜練習
【後期】 21～24回目	Unit15～Unit17 6連符と6Part Countingについて
【後期】 25～27回目	Unit18～20 カウンティングの徹底、サブディビジョンの説明
【後期】 28～30回目	応用編:ポリリズム、リズムックノーテーションについて
【後期】 31～34回目	応用編 理解とまとめ ■後期試験:譜面の読み書きや演奏にて「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽器演奏において、楽譜を理解し読譜力、記譜力を高めることはとても重要です。プロフェッショナルなレベルにおいては、他の演奏者との正確でスムーズなコミュニケーションを促したり、自己の演奏や練習の手がかりや記録になったりします。また、音のタイミングを理解したり楽曲の構成を把握するのに大きな助けになります。高度な物を理解するにしても最後には基本の習熟度如何に関わってきます。一つ一つ理解していくことで必ず読譜力が身に付き、音楽活動のプラスになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ベース&ドラム I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要	ドラマーが現場で要求される様々なシチュエーションを想定し、リズム帯の演奏バリエーションを深めるとともにベーシストとのコンビネーション、コミュニケーション力を高めるメソッドを学習します。・課題曲をもとに、ジャンルを問わず幅広い楽曲のリズムパターンを習得する。各ジャンルでのリズムの位置関係を学ぶ。				
到達目標	・課題曲のリズムパターンを習得しジャンルに合ったリズムの在り方を知る。 ・ベースとのコンビネーション、コミュニケーションを深め、演奏のクオリティに反映させる技術を身につける。 ・音符の長さ、位置関係、リズム隊として楽曲を演奏する上で、より深くリズムの在り方を理解する。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲1】8ビートの王道パターンでベースとのコンビネーションを理解する。 【課題曲2】ノリのあるベースのコードラインを、4分のキックパターンで支えるコンビネーションを理解する。
【前期】 4～7回目	【課題曲3】Oneコード進行を主体とした楽曲。ウラを強調したリズムパターンとベースとのコンビネーションを理解する。 【課題曲4】コードチェンジ時の点どしりとしたリズムパターンを理解する。
【前期】 8～10回目	【課題曲5】スムーズ且つ軽快なビートと、大きなノリ2つの共存を知る。 【課題曲6】ダイナミックなグルーブと、うねりのあるベースとのリズムパターンを理解する。
【前期】 11～13回目	【課題曲7】激しさの中にしっかりとしたリズム隊の支えを知る。 【課題曲8】1拍抜きとシンコペーションを絡めたリズムパターンを理解する。
【前期】 14～17回目	【課題曲9】3連のノリと、ジャングルビートを織り交ぜたリズムパターンでコンビネーションを図る。 【前期まとめ】前期課題曲の中から抜粋したコンビネーションをブラッシュアップする。 ■前期試験:課題曲の演奏にて「コンビネーション/ テンポキープ / グループ / アイコンタクト」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲10】ベースのスラップ奏法に対し、タイトなリズムパターンでコンビネーションを図る。 【課題曲11】レイドバックしたベースラインに対し、楔の様に絡むキックとリズムパターンを知る。
【後期】 21～24回目	【課題曲12】速いパルスの楽曲に対し、脱力したプレイでベースとのコンビネーションを図る。 【課題曲13】4ビート、ベースのウォーキングと、シンバルレガート/ハイハットのテンポキープでJAZZを学ぶ。
【後期】 25～27回目	【課題曲14】ゆったりとしたボサノバのリズム、シンコペーションするベースラインと基本のリズムパターンのコンビネーションを知る。 【課題曲15】スローバラードな楽曲、音符の長さ、楽曲を支えるテンポキープとグルーブを知る。
【後期】 28～30回目	【課題曲16】表と裏が交互になる変拍子。パルスを感じ、構成、テンポキープ、コンビネーションを図る。 【課題曲17】16feel、キメの多い楽曲。構成を理解し、ベースと息の合ったプレイを学ぶ。
【後期】 31～34回目	【課題曲17】R&B、ミドルテンポで少しハネた気持ちの良い楽曲。グルーブを重きに、ボーカルをイメージして演奏する。 【年間まとめ】後期課題曲の中から抜粋し、ブラッシュアップする。 ■後期試験:課題曲の演奏にて「コンビネーション/ テンポキープ / グループ / アイコンタクト」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コンビネーション/ テンポキープ / グループ / アイコンタクト」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	バンドの中で「リズム隊」がしっかりしていると、グループが決まり、方向性も見えやすくなります。ドラムとベースの関係は楔の様で、曲によってはジャストで合わせるもよし、ベースが少しレイドバックしたバスドラとの関係性など、突き詰めれば詰めるほど奥深く重要なパートです。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムリーディングワークアウト I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSiC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要	世界の様々な音楽のリズム、グループに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターしていきます。また、バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけます。週一で一課題を90分の予習後、ギター、ベース、ドラムでアンサンブルを行うリズム、グループに重点を置いた授業。				
到達目標	・ギター、ベース、ドラムでアンサンブルする上で意識するリズムやポイントを様々なジャンルの課題曲を通して習得する。 ・自分の演奏するパート以外に意識を向けて全体でアンサンブルを組み上げる為の集中力を上げる。 ・全体でリズムをグループさせるタイム感を養う。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	unit1～4 ・unit1:カウントの重要性 ・unit2:8ビートのリズムパターン ・unit3:ダイナミクスヘトライ ・unit4:シンコペーション
【前期】 4～7回目	unit5～8 ・unit5:ピックアップノートのスタート ・unit6:Que出しへのトライ ・unit7:マイナーブルース ・unit8:ハーフタイムフィール
【前期】 8～10回目	unit9～11 ・unit9:フォークロックのニュアンス ・unit10:セクショントリハーサルマーク ・unit11:Cセクションへの対応
【前期】 11～13回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 14～17回目	前期まとめ/unit1～11までのおさらい ■前期試験:課題曲の演奏にて「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	unit12～14 ・unit12:オリジナル譜面へのトライ ・unit13:スウィング & シャッフル ・unit14:ロックシャッフル
【後期】 21～24回目	unit15～17 ・unit15:スウィングビートへのトライ ・unit16:ジャズシャッフル ・unit17:12/8フィールのリズム
【後期】 25～27回目	unit18～20: ・unit18:16ビートのFunkフィール ・unit19:Funkフィールのアンサンブル ・unit20:ブラックミュージックのフィールを学ぶ
【後期】 28～30回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 31～34回目	後期まとめ ■後期試験:課題曲の演奏にて「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	この授業でアンサンブルに必要な集中力やリズムのポイントを養って、高いアンサンブルスキルを身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・中西圭三、TAKUYA(ex.JAM)、TOKIE(ex.ライズ)、唄人羽等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
様々な音楽スタイルの課題曲を通して、楽曲が内包するテクニックやリズム、グループフィールやステージング技術の習得を目指すのがライブ実習。ヒットナンバーの演奏を通してライブ感やステージパフォーマンスの更なるグレードアップをはかります。課題曲を使って、実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ライブならではの表情力豊かな演奏力を身につける。 ・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。 ・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。 ・演奏以外の面でのパフォーマンス力を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握。シンプルな8ビートの中でのダイナミクスを学ぶ
【前期】 4～7回目	【課題曲①】8シャッフルのグループ、フィルインのパターンを身につける。シンコペーションを多様してもタイムをしっかりとキープできる
【前期】 8～10回目	【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握。少し複雑な構成のパターンをしっかりと叩き分ける
【前期】 11～13回目	【課題曲②】急なテンポチェンジをバンド全体でしっかりと息を合わせ演奏できる
【前期】 14～17回目	【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握 ■前期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲④】ロックだが16ビートのグループがきちんと出せる。パターンが変わっていくが一定のタイムで演奏できる
【後期】 21～24回目	課題曲【④】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 25～27回目	課題曲【⑤】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 28～30回目	課題曲【⑥】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 31～34回目	【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握 ■後期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ライブ演奏はCDのようにただ演奏すれば良い、というわけにはいきません。演奏は上手なのに、いまいち盛り上がらないライブもありますし、逆にあまり上手ではないけれど心をつかまれる演奏もあります。しっかりと演奏することはもちろん必要ですが、ライブならではのアレンジや視覚的なパフォーマンスも重要になってきます。それらの技術をこの授業で身につけていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・中西圭三、TAKUYA(ex.JAM)、TOKIE(ex.ライズ)、唄人羽等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
<p>様々な音楽スタイルの課題曲を通して、楽曲が内包するテクニックやリズム、グループフィールやステージング技術の習得を目指すのがライブ実習。ヒットナンバーの演奏を通してライブ感やステージパフォーマンスの更なるグレードアップをはかります。課題曲を使って、実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。</p> <p>※アンサンブル基礎 I の二コマ目として実施</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ライブならではの表情力豊かな演奏力を身につける。 ・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。 ・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。 ・演奏以外の面でのパフォーマンス力を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握。シンプルな8ビートの中でのダイナミクスを学ぶ
【前期】 4～7回目	【課題曲①】8シャッフルのグループ、フィルインのパターンを身につける。シンコペーションを多様してもタイムをしっかりとキープできる
【前期】 8～10回目	【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握。少し複雑な構成のパターンをしっかりと叩き分ける
【前期】 11～13回目	【課題曲②】急なテンポチェンジをバンド全体でしっかりと息を合わせ演奏できる
【前期】 14～17回目	【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握 ■前期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲④】ロックだが16ビートのグループがきちんと出せる。パターンが変わっていくが一定のタイムで演奏できる
【後期】 21～24回目	課題曲【④】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 25～27回目	課題曲【⑤】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 28～30回目	課題曲【⑥】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 31～34回目	【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握 ■後期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ライブ演奏はCDのようにただ演奏すれば良い、というわけにはいきません。演奏は上手なのに、いまいち盛り上がらないライブもありますし、逆にあまり上手ではないけれど心をつかまれる演奏もあります。しっかりと演奏することはもちろん必要ですが、ライブならではのアレンジや視覚的なパフォーマンスも重要になってきます。それらの技術をこの授業で身につけていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタイル I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル発展 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、 メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作				
授業概要	様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの演奏へ取り込んでいきます。				
到達目標	・様々なスタイルの中からリズムやグルーブにフォーカス。多くの類例を通してアンサンブルの中で課題フレーズを反復し、バンド演奏において必要となるリズム感、を底上げします。 ・各ジャンルのノリやグルーブを表現できる演奏を目指す。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Deep Purple等)【Punk】ジャンルの考察とフレーズ練習(Sex Pistols等)【Alternative/Grunge】ジャンルの考察とフレーズ練習(Nirvana等)
【前期】 4～7回目	【Alternative/Mixture Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Red Hot Chilli Peppers等)【Hard Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Guns N' Roses等)【Metal】ジャンルの考察とフレーズ練習(Metallica等)【Funk】ジャンルの考察とフレーズ練習(James Brown等)
【前期】 8～10回目	【Funk2】ジャンルの考察とフレーズ練習(Wild Cherry等)【Blues】ジャンルの考察とフレーズ練習(B.B.King等)
【前期】 11～13回目	テストレビュー/前期テスト/【Jazz】ジャズブルース進行
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Ska】ジャンルの考察とフレーズ練習(The Skatalites等)【Raggae】ジャンルの考察とフレーズ練習(Bob Marley等)【Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(sunny等)
【後期】 21～24回目	【Bossa Nova】ジャンルの考察とフレーズ練習(イパネマの娘等)【Soul】ジャンルの考察とフレーズ練習(Marvin Gaye等)
【後期】 25～27回目	【Smooth Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(Paul Jackson Jr.等)【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Larry Carlton等) / 後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Pat Metheny等) / テストレビュー/後期テスト
【後期】 31～34回目	スライドバー/年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムというパートの特性もありますが、主体性を持って何かを企画し、行動に移し、形にする事を余りしない傾向があります。これからの時代のドラマーは、より音楽や制作活動を包括して捉えていくのが望ましいはずで、自分の特性を見極めて、自分からどんどん発信していく力を身につけてください。
備考	

音楽アーティスト科 ドラムコース 受講科目一覧 1年次

ドラム&クリエイター専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I（前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I（後期）	34	2	1
講義	業界知識 I	72	2	4
演習	共同演習 I	68	2	4
講義	音楽理論/調音 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	68	2	2
実習	サウンドアナライズ I	68	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	68	2	4
演習	アンサンブル応用 I	68	2	4
演習	アンサンブル発展 I	68	2	4
実習	DAW・DTM基礎 I	68	2	2
実習	DAW・DTM応用 I	68	2	2
合計		888	26	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンド I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	<input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要	音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。				
到達目標	<p>前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。</p> <p>後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントターやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作権隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ドラムチューニング I		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作 				
授業概要	<p>ドラムセットはほとんどがアコースティックな要素でできており、楽器自体の個体差、環境による変化の大きい楽器です。なおかつライブハウスやレンタルスタジオでは備え付けのキットを使うことも少なくないので、即座に環境にあったサウンドメイクができるよう学んでいきます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲、ジャンルによる最適なサウンドメイクができる ・クライアントの要望を理解し、サウンドに反映できる ・スピーディーなチューニング、ミュートができるようになる 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	スネアドラムの構造を理解し、適切なサウンドメイクができるようになる。
【前期】 4～7回目	ドラムセット全体のチューニング、サウンドメイクを学ぶ。
【前期】 8～10回目	シンバルの特性を理解し、最適なマッチングを学ぶ。
【前期】 11～13回目	スネアドラムを深掘り。ヘッドやスネアワイヤーによるサウンドの変化、ミュートなど。
【前期】 14～17回目	前期試験に向けてのまとめ。 ■前期試験：試験にて到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	シェルの素材による特性、ラグやフープによるサウンドの変化。
【後期】 21～24回目	スタックシンバルの組み合わせ、エフェクト系モダンドラミング。
【後期】 25～27回目	スティック、ビーター、ロッドなどによる音色の変化。
【後期】 28～30回目	生音と録り音のサウンドの違いを学ぶ。
【後期】 31～34回目	後期試験、学年末の総まとめ。 ■後期試験：試験にて到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	チューニングというものは、ドラムのプレイングには直接関係のない部分ですが、どんなに良いプレイをしても音のせいで100%良さを発揮できていないシーンが多々あります。それはとてももったいない！良い音で最高のプレイをしましょう！
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギターヴォーカル/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	バンド「図鑑」にてドリーミュージックより4枚のアルバムを全国リリース。 メディア出演や海外フェス、国内のライブ、フェスなど多数参加。 現在はギタリストとしてアーティストのコンサート、レコーディング、オーケストラ参加など、幅広いジャンルにて活動。				
授業概要	一年間を通して、現代の音楽活動・制作に必要な、基本的音楽理論を学ぶ。また正確に楽譜を読み書きする能力と作曲の為の基礎知識を養います。				
到達目標	<p>様々なシチュエーションで使われる音楽理論。その理論を基本的な部分から理解し、現代音楽の現場で実際に使えるコミュニケーションのツールとして、自分の知識を形成する。</p> <p>また、関わる音楽を、より多角的・第三者的に捉えるための判断材料の一環として利用できるようになる。</p> <p>世の中にある様々な楽曲、サウンドを、土台の部分から理解し、その楽曲のエッセンスを自分の曲やシチュエーションで利用できるようになる。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 4～7回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 8～10回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 11～13回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 14～17回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 21～24回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 25～27回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 28～30回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 31～34回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン 				
授業概要					
音楽の三大要素であるリズムを理解し、小節や指の概念を理解する。リズムに関する記号や音符を理解する。ロック/ブルース/ジャズ/ファンク/レゲイ/フュージョン/メタル他、ルーツミュージックなどをスタイル別に、また世界的スタンダードナンバーの持つリズムの歴史が後世に与えたインパクトなどを知識として理解していきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な音楽のリズム、グルーヴに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになる。 ・バンドでのテンポキープやサウンドコントロールに磨きをかける。 ・誰と演奏してもぶれないリズム、グルーヴを身につける。 ・譜面に出てくる色々な記号を理解する。 ・譜面を読むスピードが速くなるよう初見に強くなる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	カウントの重要性/8ビートのリズムパターン/ダイナミクスへのトライ/シンコペーション
【前期】 4～7回目	ピックアップノートのスタート/Que出しのトライ/マイナーブルース/ハーフタイムフィール
【前期】 8～10回目	フォークロックのニュアンス/セクションとリハーサルマーク/Cセクションへの対応
【前期】 11～13回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 14～17回目	前期内容のまとめ ■前期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	オリジナル譜面へのトライ/スウィング&シャッフル/ロックシャッフル
【後期】 21～24回目	スウィングビートへのトライ/ジャズシャッフル/12/8フィールのリズム
【後期】 25～27回目	16ビートのFunkフィール/Funkフィールのアンサンブル/ブラックミュージックのフィールを学ぶ
【後期】 28～30回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 31～34回目	後期内容のまとめ ■後期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	セット科目である「リズムリーディングワークアウト」は譜面のみでのやり取りになります。 この授業を通して譜面の初見のスピード、あらゆる記号や表現力を高め、即戦力を身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループ&オドメーター I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン 				
授業概要					
<p>あらゆるジャンルにおけるフィールの違いを理解・体感していくと同時に、グループを構成するとされているリズム、シンコペーション、アーティキュレーション、サウンドの強化をおこないます。ドラムを演奏する上でのリズムの感じ方、グループの捉え方を学びます。また、変拍子の楽曲を演奏するために必要な考え方、ビートやフィルインの構成力を鍛えます。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・リズムのノリを体得する。 ・ビート、フィルインの発想力を培う。 ・カウントを身体の中に宿す。 ・リズムを点ではなく円で感じられるようにする。 ・変拍子の楽曲をアレンジして叩けるようにする。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	4分音符、8分音符、16音符の中で構成されるビート(H.H./S.D./B.D.の3点)に触れてみる練習
【前期】 4～7回目	アクセント打ち(4分音符、8分音符、16音符)で構成
【前期】 8～10回目	3連符、6連符で構成されるビートに触れてみる練習
【前期】 11～13回目	アクセント打ち(3連4符、6連符)で構成
【前期】 14～17回目	4分音符、8分音符、16音符、3連符、6連符で構成されるフィルインの練習 ■前期試験:課題曲の演奏にて「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ユニゾンフレーズに対しての捉え方をあらゆる方向からアプローチする練習
【後期】 21～24回目	オスティナートフレーズをビートとフィルの両面からアプローチする練習
【後期】 25～27回目	クリックトレーニング(8分音符ウラのアプローチ)
【後期】 28～30回目	クリックトレーニング(16分音符4つ目、2つ目のアプローチ)
【後期】 31～34回目	クリックトレーニング(3連符3つ目、2つ目のアプローチ) ■後期試験:課題曲の演奏にて「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	なんとなく叩いていたリズムを、構成しているものがより明確になりコントロールできる状態を目指します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレイングテクニック I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ジャイロズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
ドラミングの基礎ともいえる、ルーディメンツをタイムキープ、モーションの効率化、4ウェイコーディネーションなど複合的に取り入れ、より応用性の高いアプローチとして成熟させていきます。ドラムセット演奏における基本技術。特にハンド・テクニックとフット・テクニック全般を、各名称も覚えながら体系的に学んでいく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・スネア、ドラム、ルーディメンツを中心に学習し、基本を正確に理解 & 習得する。 ・それぞれの関係性を学び、それに伴いグラッドストーンやモーラー等の伝統基本奏法を身につける。 ・音量の強弱、アクセントのコントロール、スピード、巧緻性等の向上を図る。 ・ドラマーに必要な基本技術を理解し、各自の音楽性や表現力と技術との融合を促し、発展させていける段階に引き上げる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ドラマーにとっての基本奏法、ルーディメンツ等の習得の必要性、重要性の説明 グラッドストーン奏法の基本グリップ、リバウンドの感覚の習得
【前期】 4～7回目	4つの基本ストロークとそれによるアクセントとノーアクセントの叩き分け、ダブル・ストロークの習得
【前期】 8～10回目	PAS40ルーディメンツ学習 ショート・ロール系 セットへの応用
【前期】 11～13回目	PAS40ルーディメンツ学習 パラディドル系 試験
【前期】 14～17回目	PAS40ルーディメンツ学習 フラム系 コンビネーション練習 ■前期試験：譜面の読み書きや演奏にて「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	PAS40ルーディメンツ学習 ドラッグ系、インバーテッド系
【後期】 21～24回目	関連性のあるルーディメンツの統括 手足のコンビネーション ヘルタ等
【後期】 25～27回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ①～② フット・テクニックへの基本奏法の応用
【後期】 28～30回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ②～③ 試験
【後期】 31～34回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ③～④ まとめ ■後期試験：譜面の読み書きや演奏にて「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムスは、とても楽しく様々な音が出る取り組みやすい楽器ですが、一方で、技術的に上達するには手足の基本奏法をきちんと習得する必要があります。それには独習で身につけるよりもレッスンで正確な知識と練習方法を学ぶ事が近道です。ドラムセット演奏の可能性を自由に引き出せるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムリーディングワークアウト I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
世界の様々な音楽のリズム、グループに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターしていきます。また、バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけます。週一で一課題を90分の予習後、ギター、ベース、ドラムでアンサンブルを行うリズム、グループに重点を置いた授業。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ギター、ベース、ドラムでアンサンブルする上で意識するリズムやポイントを様々なジャンルの課題曲を通して習得する。 ・自分の演奏するパート以外に意識を向けて全体でアンサンブルを組み上げる為の集中力を上げる。 ・全体でリズムをグループさせるタイム感を養う。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	unit1～4 ・unit1:カウントの重要性 ・unit2:8ビートのリズムパターン ・unit3:ダイナミクスヘトライ ・unit4:シンコペーション
【前期】 4～7回目	unit5～8 ・unit5:ピックアップノートのスタート ・unit6:Que出しへのトライ ・unit7:マイナーブルース ・unit8:ハーフタイムフィール
【前期】 8～10回目	unit9～11 ・unit9:フォークロックのニュアンス ・unit10:セクショントリハーサルマーク ・unit11:Cセクションへの対応
【前期】 11～13回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 14～17回目	前期まとめ/unit1～11までのおさらい ■前期試験:課題曲の演奏にて「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	unit12～14 ・unit12:オリジナル譜面へのトライ ・unit13:スウィング & シャッフル ・unit14:ロックシャッフル
【後期】 21～24回目	unit15～17 ・unit15:スウィングビートへのトライ ・unit16:ジャズシャッフル ・unit17:12/8フィールのリズム
【後期】 25～27回目	unit18～20: ・unit18:16ビートのFunkフィール ・unit19:Funkフィールのアンサンブル ・unit20:ブラックミュージックのフィールを学ぶ
【後期】 28～30回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 31～34回目	後期まとめ ■後期試験:課題曲の演奏にて「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	この授業でアンサンブルに必要な集中力やリズムのポイントを養って、高いアンサンブルスキルを身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・中西圭三、TAKUYA(ex.JAM)、TOKIE(ex.ライズ)、唄人羽等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
様々な音楽スタイルの課題曲を通して、楽曲が内包するテクニックやリズム、グループフィールやステージング技術の習得を目指すのがライブ実習。ヒットナンバーの演奏を通してライブ感やステージパフォーマンスの更なるグレードアップをはかります。課題曲を使って、実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ライブならではの表情力豊かな演奏力を身につける。 ・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。 ・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。 ・演奏以外の面でのパフォーマンス力を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握。シンプルな8ビートの中でのダイナミクスを学ぶ
【前期】 4～7回目	【課題曲①】8シャッフルのグループ、フィルインのパターンを身につける。シンコペーションを多様してもタイムをしっかりとキープできる
【前期】 8～10回目	【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握。少し複雑な構成のパターンをしっかりと叩き分ける
【前期】 11～13回目	【課題曲②】急なテンポチェンジをバンド全体でしっかりと息を合わせ演奏できる
【前期】 14～17回目	【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握 ■前期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲④】ロックだが16ビートのグループがきちんと出せる。パターンが変わっていくが一定のタイムで演奏できる
【後期】 21～24回目	課題曲【④】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 25～27回目	課題曲【⑤】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 28～30回目	課題曲【⑥】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 31～34回目	【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握 ■後期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ライブ演奏はCDのようにただ演奏すれば良い、というわけにはいきません。演奏は上手なのに、いまいち盛り上がらないライブもありますし、逆にあまり上手ではないけれど心をつかまれる演奏もあります。しっかりと演奏することはもちろん必要ですが、ライブならではのアレンジや視覚的なパフォーマンスも重要になってきます。それらの技術をこの授業で身につけていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・中西圭三、TAKUYA(ex.JAM)、TOKIE(ex.ライズ)、唄人羽等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
<p>様々な音楽スタイルの課題曲を通して、楽曲が内包するテクニックやリズム、グループフィールやステージング技術の習得を目指すのがライブ実習。ヒットナンバーの演奏を通してライブ感やステージパフォーマンスの更なるグレードアップをはかります。課題曲を使って、実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。</p> <p>※アンサンブル応用 I の二コマ目として実施</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ライブならではの表情力豊かな演奏力を身につける。 ・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。 ・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。 ・演奏以外の面でのパフォーマンス力を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握。シンプルな8ビートの中でのダイナミクスを学ぶ
【前期】 4～7回目	【課題曲①】8シャッフルのグループ、フィルインのパターンを身につける。シンコペーションを多様してもタイムをしっかりとキープできる
【前期】 8～10回目	【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握。少し複雑な構成のパターンをしっかりと叩き分ける
【前期】 11～13回目	【課題曲②】急なテンポチェンジをバンド全体でしっかりと息を合わせ演奏できる
【前期】 14～17回目	【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握 ■前期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲④】ロックだが16ビートのグループがきちんと出せる。パターンが変わっていくが一定のタイムで演奏できる
【後期】 21～24回目	課題曲【④】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 25～27回目	課題曲【⑤】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 28～30回目	課題曲【⑥】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 31～34回目	【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握 ■後期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ライブ演奏はCDのようにただ演奏すれば良い、というわけにはいきません。演奏は上手なのに、いまいち盛り上がらないライブもありますし、逆にあまり上手ではないけれど心をつかまれる演奏もあります。しっかりと演奏することはもちろん必要ですが、ライブならではのアレンジや視覚的なパフォーマンスも重要になってきます。それらの技術をこの授業で身につけていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタイル I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル発展 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、 メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作				
授業概要	様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの演奏へ取り込んでいきます。				
到達目標	・様々なスタイルの中からリズムやグルーブにフォーカス。多くの類例を通してアンサンブルの中で課題フレーズを反復し、バンド演奏において必要となるリズム感、を底上げします。 ・各ジャンルのノリやグルーブを表現できる演奏を目指す。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Deep Purple等)【Punk】ジャンルの考察とフレーズ練習(Sex Pistols等)【Alternative/Grunge】ジャンルの考察とフレーズ練習(Nirvana等)
【前期】 4～7回目	【Alternative/Mixture Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Red Hot Chilli Peppers等)【Hard Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Guns N' Roses等)【Metal】ジャンルの考察とフレーズ練習(Metallica等)【Funk】ジャンルの考察とフレーズ練習(James Brown等)
【前期】 8～10回目	【Funk2】ジャンルの考察とフレーズ練習(Wild Cherry等)【Blues】ジャンルの考察とフレーズ練習(B.B.King等)
【前期】 11～13回目	テストレビュー/前期テスト/【Jazz】ジャズブルース進行
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Ska】ジャンルの考察とフレーズ練習(The Skatalites等)【Raggae】ジャンルの考察とフレーズ練習(Bob Marley等)【Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(sunny等)
【後期】 21～24回目	【Bossa Nova】ジャンルの考察とフレーズ練習(イパネマの娘等)【Soul】ジャンルの考察とフレーズ練習(Marvin Gaye等)
【後期】 25～27回目	【Smooth Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(Paul Jackson Jr.等)【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Larry Carlton等) / 後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Pat Metheny等) / テストレビュー/後期テスト
【後期】 31～34回目	スライドバー/年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムというパートの特性もありますが、主体性を持って何かを企画し、行動に移し、形にする事を余りしない傾向があります。これからの時代のドラマーは、より音楽や制作活動を包括して捉えていくのが望ましいはずで、自分の特性を見極めて、自分からどんどん発信していく力を身につけてください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW・DTM基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	メタルバンド「ANOTHER STREAM」(アナザーストリーム)にてインディーズデビュー。国内外から様々な評価を得つつ2012年に脱退。 2013年よりレコーディングエンジニア・アレンジャーとしてのキャリアを開始し、メジャーアーティストを始め様々なアーティストのレコーディング、編曲などに参加。				
授業概要	Logic Pro X等のDAWソフトを用いり基本操作及び楽曲制作の基礎知識を習得します。 PC(Mac)の操作を理解・習得します。 音源制作を行う手順を一から理解できるようにします。 プロジェクトや作曲を行っていき上で、どの様なアプローチで楽曲制作していくかを習得します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。 ・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。 ・生徒自身で作詞・作曲した作品を、DAWを用いて具体化することができる。 ・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。 ・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込みから、ギターやヴォーカルなどのオーディオRECに関するDAW全般の操作を習得する。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	logicの起動、終了、作成ファイルの管理/録音、デバイス設定/ステップ入力、リアルタイム入力、オーディオREC
【前期】 4～7回目	譜面の読み方/耳コピ曲を決める、前期までにこれを完成させる
【前期】 8～10回目	ドラム打ち込み(8ビート、16ビート、4つうち、フィル、クオンタイズ)/ドラム打ち込み(ドラマー、808kit、その他ドラム音色)/ベースの打ち込み(レート、3th、5th、オクターブ奏法)
【前期】 11～13回目	ピアノの打ち込み(右手・左手のフォーム、ストラムとアルペジオ)/ギターの打ち込み(適正なボイスイング、ピアノロール画面8va移動)
【前期】 14～17回目	シンセメロの打ち込み(メロディック、ポリフォニック、単音耳コピ)/ボーカル録音(入力レベル、パンチIN OUT)/バウンス、Googleドライブでファイルバックアップ ■前期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ストリングスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)(音色の種類、logic、コンタクト)/プラスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)
【後期】 21～24回目	プラスの使い方(音色の種類、logic、コンタクト)/オートメーション(クレッシェンド、デクレッシェンド)/woodwindの使い方(特にフルート、sax)
【後期】 25～27回目	シンセの使い方(音の3要素、オシレーター)/シンセの使い方(フィルター、ADSR)/シンセの使い方(LFO、モノ、ポリ)
【後期】 28～30回目	オートメーション(ビルドアップの作り方)/サイドチェインの作り方
【後期】 31～34回目	コンプ・EQ・リバーブの使い方/ディレイ・コーラス・モジュレーションの使い方 ■後期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞・作曲は、音楽業界では中心になります。楽曲がなければ、レコーディンもできないし、ライブもできない、PAや照明などの業種も存在しなくなります。 アーティストは楽曲を作成し販売をする商売です。その為に必要なノウハウをDAWを使って勉強していきます。
備考	参考書「Logic Pro X 10.2 徹底操作ガイド」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	コンピューターレコーディング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW・DTM応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて長年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器屋音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要					
楽器奏者が必要なレコーディングの技術と知識を身につけます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・マイキングやインターフェースの調整など、レコーディングに必要な機材の基礎知識を身に付ける ・レコーディング時のPCでのDAWオペレーションを理解し実践出来る様になる。 ・レコーディングした音源をエディット、ミックスで調整出来る様になる。 ・楽曲に対して録音出来る様になる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	レコーディングの基礎知識、機材や備品の使用方法について
【前期】 4～7回目	インターフェースやDAWの接続、録音について
【前期】 8～10回目	楽器の接続やマイキング、レコーディング
【前期】 11～13回目	レコーディングした音の確認、トラックやミキサーについて
【前期】 14～17回目	前期まとめ ■前期試験：楽器のレコーディング技術と知識の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	レコーディングした音のエディット方法、ミックス術
【後期】 21～24回目	楽曲に合わせてレコーディング
【後期】 25～27回目	ミックスダウンの進め方、手法について
【後期】 28～30回目	マスタリングの進め方について
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験：DAW上でのオペレーション技術と知識の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「読譜 / 記譜 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	昨今は楽器奏者が自身で自宅やスタジオでレコーディングする事が多くなっています。 レコーディング技術を身に付けて楽曲制作や将来レコーディングの依頼が来た時に役立てましょう。
備考	